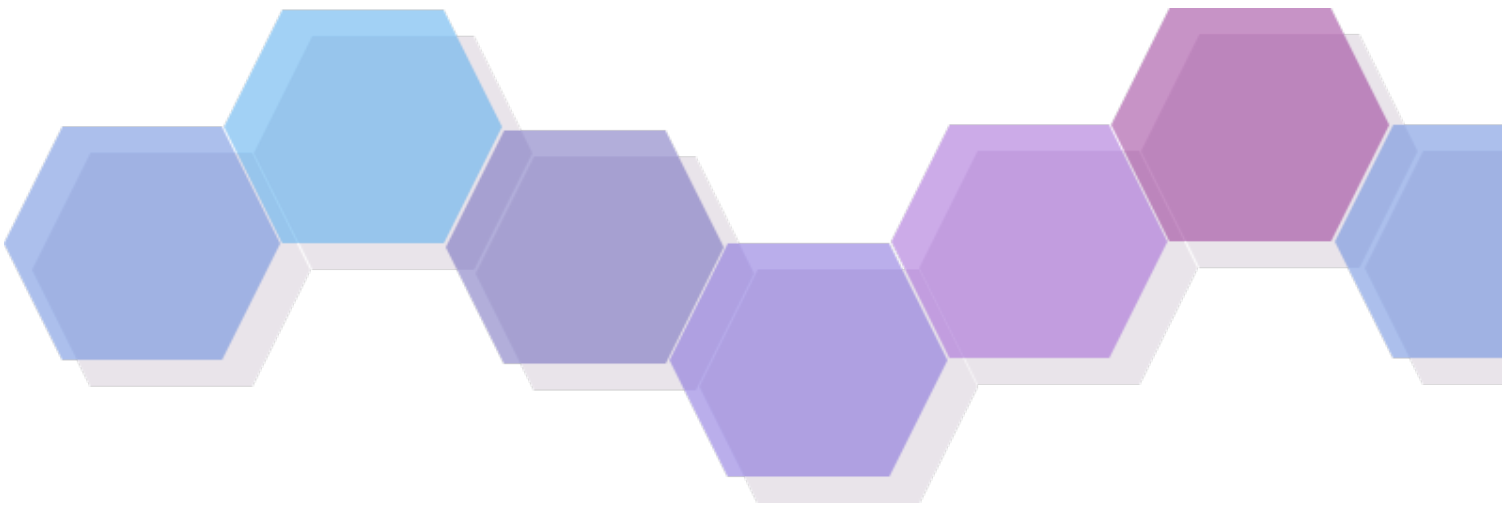




NVR・IP カメラ DDNS 設定



目次

デバイスを DDNS で接続する	3
DDNS 接続での注意点	3
NVR に DDNS を設定する	3
Step1:【NVR】IPv4 アドレスを固定する	3
Step2:【NVR】DDNS 有効設定	4
Step3:【NVR】NAT 無効設定	5
Step4:【NVR】UPnP 無効設定	6
カメラに DDNS を設定する	7
Step1:【カメラ】WEB 設定画面を開く	7
Step2:【カメラ】IPv4 アドレスを固定する	7
Step3:【カメラ】DDNS 設定	8
Step4:【カメラ】UPnP 無効設定	9
ルーターにポート転送設定を行う	10
デバイスのポート番号(初期値)について	10
ポート転送設定手順(ONU RT-500KI の場合)	10
«デバイスが NVR の場合»	11
«デバイスがカメラの場合»	11
視聴アプリに DDNS 接続のデバイスを追加する	12
スマートフォン用アプリ:SuperLive Plus の操作	12
Windows 用アプリ:NVMS2.0(Secula View／Monitor Client)の操作	13
NVR に DDNS 接続のデバイスを追加する	15
NVR を追加する場合(レコーダーの追加)	15
カメラを追加する場合	17
よくあるご質問	19
同一ネットワーク内で複数台のデバイスを DDNS 接続する場合	19
UPnP 機能について	19

デバイスを DDNS で接続する

DDNS 接続での注意点

DDNS 接続を行うデバイスは、必ずデバイスのパスワードを初期値から変更してください。また変更後のパスワードは第三者に推測されにくいものをご設定ください。

パスワードが漏洩すると、カメラの不正アクセスに繋がりますのでご注意ください。

NVR に DDNS を設定する

NVR に DDNS 設定を行うための手順です。Secula NVR は P2P 接続に対応していますが、他拠点の NVR を追加する場合や、P2P 接続が使用できない環境では DDNS で接続します。

Step1:【NVR】IPv4 アドレスを固定する

- ① NVR 設定パネルから、ネットワーク項目内の【TCP/IP】をクリックします。



- ② IP アドレス設定画面が開きます。
イーサネットポート 1 が選択された状態で「IPv4 アドレス自動取得」のチェックマークを外します。
※既にチェックが外れている場合は IP アドレスが固定されているため作業は不要です。Step2:【NVR】DDNS 有効設定(P.4)に進んでください。
- ③ NVR に固定する「アドレス」、「サブネットマスク」、「ゲートウェイ」、「優先 DNS」を入力します。「代替 DNS」は、代替 DNS サーバーが存在する場合のみ入力してください。
- ④ 【適用】をクリックします。



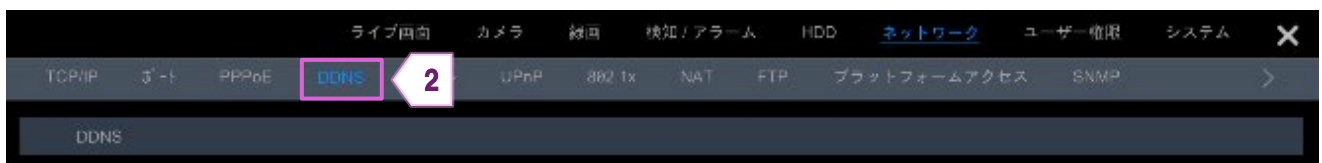
Step2:【NVR】DDNS 有効設定

NVR に DDNS 接続するためのドメイン名を設定します。

- ① 設定パネルの【ネットワーク】をクリックします。



- ② ネットワーク画面上部の【DDNS】をクリックします。



- ③ 〈有効〉のチェックボックスにチェックを入れ、〈DDNS タイプ〉で「www.autoddns.com」を選択します。

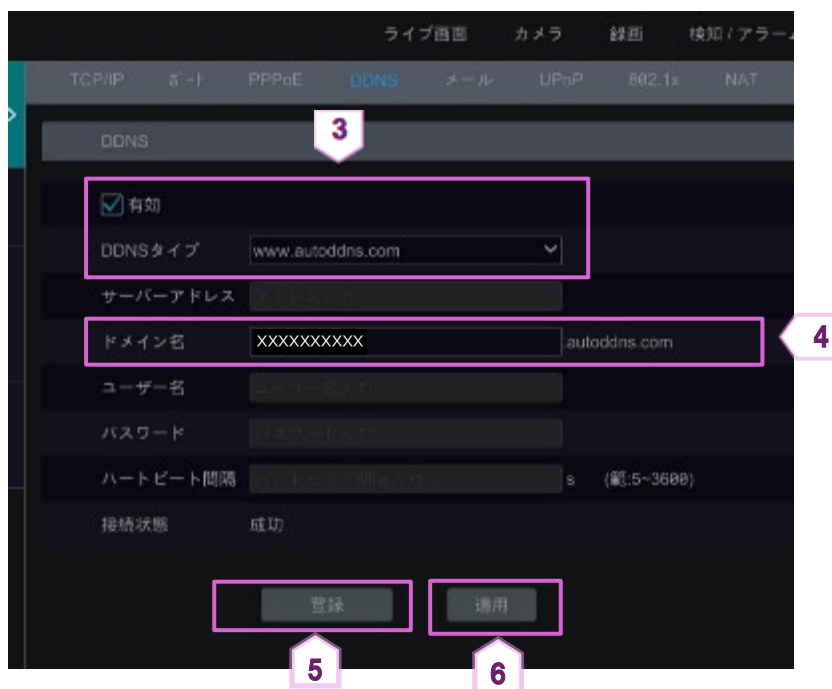
◆ 必ず「www.autoddns.com」を使用してください。他の DDNS は動作を確認しておりません。

- ④ ドメイン名に、任意のホスト名を半角英数字で入力します。

- ⑤ 【登録】をクリックします。「登録成功」と表示されることを確認します。

◆ すでに autoddns で使用されているドメイン名の場合、「ホスト名は使用中です」のエラーが表示されます。別のホスト名を入力してください。

- ⑥ 【適用】をクリックします。「保存成功！」と表示されたら設定完了です。接続状態が「成功」と表示されることを確認してください。



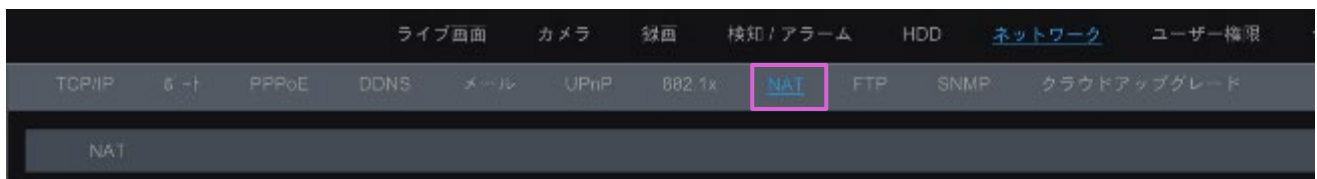
Step3:【NVR】NAT 無効設定

NAT 機能を無効にします。NAT 機能を無効にすると、P2P通信が停止します。

- ① 設定パネルの【ネットワーク】をクリックします。



- ② ネットワーク画面上部の【NAT】をクリックします。



- ③ 〈有効〉のチェックボックスのチェックを外し、【適用】をクリックします。「保存成功」と表示されます。



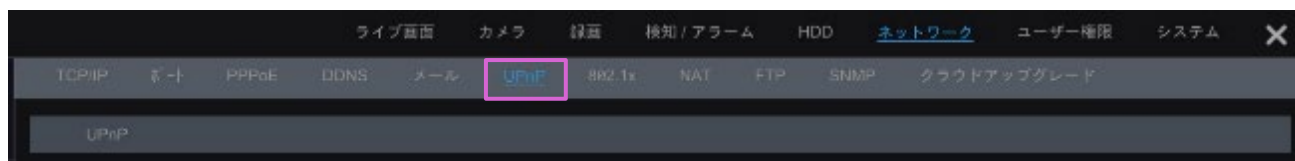
Step4:【NVR】UPnP 無効設定

NVR の UPnP 設定が無効になっていることを確認します。

- ① 設定パネルの【ネットワーク】をクリックします。

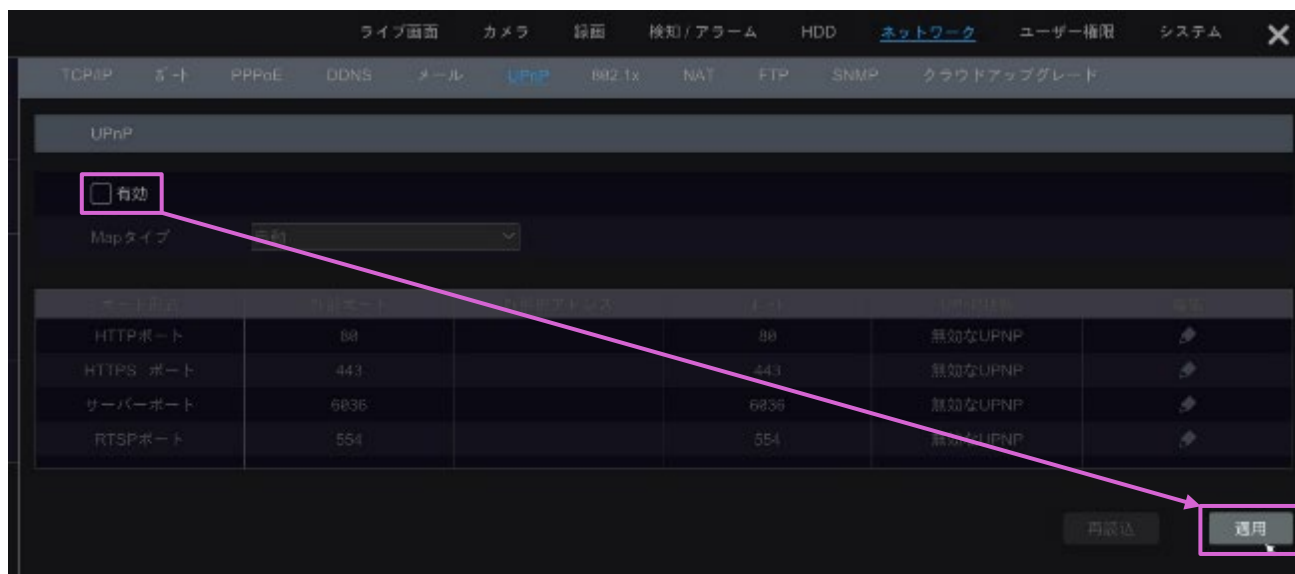


- ② ネットワーク画面上部の【UPnP】をクリックします。



- ③ 〈有効〉のチェックボックスのチェックが外れていることを確認します。

チェックが入っている場合は、チェックを外し【適用】をクリックします。「保存成功」と表示されます。



以上で NVR の設定は完了です。次の手順 ルーターにポート転送設定を行う(P.10) に進みます。

カメラに DDNS を設定する

カメラに DDNS 設定を行うための手順です。Secula シリーズの IP カメラは P2P 接続に対応していません。NVRに接続せず IP カメラ単独で使用する場合は、DDNS で接続する必要があります。

Step1:【カメラ】WEB 設定画面を開く

WEB 設定の開き方は、別紙『[Secula シリーズ IPネットワークカメラ 取扱説明書](#)』をご参照ください。

※ソリッドカメラ WEB サイトのダウンロードページに掲載しております。

<https://www.solidcamera.net/download/file/secula/manual/ipc websettings.pdf>

Step2:【カメラ】IPv4 アドレスを固定する

- ① カメラのWEB設定を開き[設定]タブをクリックします。
- ② [ネットワーク]内、[TCP/IP]をクリックします。



- ③ 〈以下の IP アドレスを使用してください〉にチェックを入れます。
カメラに固定する〈IP アドレス〉、〈サブネットマスク〉、〈ゲートウェイ〉、〈優先 DNS〉を入力します。〈代替 DNS〉は、代替 DNS サーバーが存在する場合のみ入力してください。
- ④ [テスト]をクリックします。「IP アドレスが利用可能です！」と表示されたら[OK]をクリックします。
◆ 「IP アドレスが占有されました」や「テストに失敗しました」と表示された場合、その IP アドレスは使用できません。別の IP アドレスに変更後、再度[テスト]をクリックしてください。



- ⑤ テスト成功後、[保存]をクリックします。
「保存成功」と表示されたら[OK]をクリックし、設定は完了です。

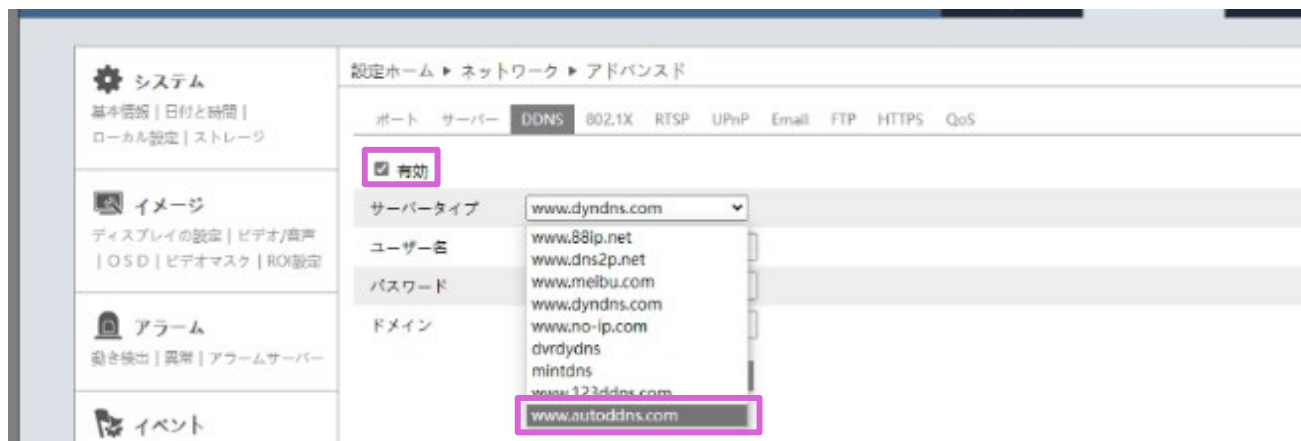


Step3:【カメラ】DDNS 設定

- ① カメラのWEB設定を開き[設定]タブをクリックします。
② カメラのWEB 設定から[ネットワーク]内の[DDNS]をクリックします。



- ③ 〈有効〉にチェックを入れます。
④ 〈サーバータイプ〉で「www.autoDDNS.com」を選択します。



- ⑤ 任意のユーザー名を入力し、[保存]をクリックします。
- ※[ユーザー名]にはドメインの「ホスト部」を入力します。ドメインは「ホスト名.autoddns.com」となります。例)ホスト部に abcd と入力した場合のドメインは abcd.autoddns.com です。



- ⑥ 「保存成功」と表示されたら[OK]をクリックし、設定は完了です。

Step4:【カメラ】UPnP 無効設定

カメラのUPnP 設定が無効になっていることを確認します。

- ① カメラのWEB設定を開き[設定]タブをクリックします。
- ② [ネットワーク]内、[UPnP]をクリックします。



- ③ 〈有効〉のチェックボックスのチェックが外れていることを確認します。
- チェックが入っている場合は、チェックを外し[保存]をクリックします。「保存成功」と表示されます。



- ④ 次の手順 ルーターにポート転送設定を行う(P.10) に進みます。

ルーターにポート転送設定を行う

ルーターにポート転送の設定を行います。「ポート転送」は、ルーターのメーカーや機種によって設定の呼称や操作が異なります。呼称例:「ポートフォワーディング」「IP マスカレード」等

デバイスのポート番号(初期値)について

Secula デバイスのポート初期値は以下の通りです

プロトコル : TCP / UDP

NVR : 初期ポート HTTP ポート:80, HTTPS ポート:443, サーバーポート:6036

カメラ : 初期ポート HTTP ポート:80, データポート:9008

※DDNS で接続するデバイスが LAN 内に 1 台のみの場合です。

※LAN 内の複数デバイスで DDNS 接続する場合、2 台目以後のデバイスはポート番号を変更する必要があります。[【参照】同一ネットワーク内で複数台のデバイスを DDNS 接続する場合 P.19](#)

ポート転送設定手順(ONU RT-500KI の場合)

ここでは参考に、NTT の ONU RT-500KI の手順を記載します。

※ルーターの操作につきましては、ご使用ルーターの説明書をご覧ください。

- ① RT-500KI の設定画面から[詳細設定]、[静的IPマスカレード設定]をクリックします。

接続先設定 (IPv4 PPPoE)

トップページ > 基本設定 > 接続先設定 (IPv4 PPPoE)

複数の接続先と同時に接続するよう設定することができます。
通常の通信にはメインセッションを使用し、指定した特定の条件に一致した
通話中に[設定]ボタンをクリックして設定変更を行った場合、通話が切断さ

【接続先の選択設定】

接続可	セッション名	接続先名	接続
<input checked="" type="checkbox"/>	メインセッション	ISP1	常時
<input type="checkbox"/>	セッション2		要求時接続(I
<input type="checkbox"/>	セッション3		要求時接続(I
<input type="checkbox"/>	セッション4		要求時接続(I
<input type="checkbox"/>	セッション5		要求時接続(I

設定

- ② 設定を追加する行の[編集]をクリックします。

静的IPマスカレード設定

トップページ > 詳細設定 > 静的IPマスカレード設定

高度な設定画面の[WAN→LAN中継設定]と静的IPマスカレード設定画面の内容が競合した場合は、高度な設定画面の[WAN→LAN中継設定]の内容が優先されます。
設定変更を行うと、通信・通話が切断されることがあります。

対象インタフェースを選択 メインセッション

【静的IPマスカレード設定】

設定

有効/無効	エントリ番号	変換対象プロトコル	変換対象ポート	宛先IPアドレス	宛先ポート	操作
<input type="checkbox"/>	1					編集 削除
<input type="checkbox"/>	2					編集 削除
<input type="checkbox"/>	3					編集 削除

- ③ 静的 IP マスカレード設定 エントリ編集画面が開きます。1 ポートにつき 1 エントリ設定します。〈変換対象プロトコル〉、〈変換対象ポート〉、〈宛先 IP アドレス〉、〈宛先ポート〉を入力し[設定]をクリックします。

NTT
RT-500KI
ファームウェアバージョン 08.00.0020

静的IPマスカレード設定 エントリ編集

トップページ > 詳細設定 > 静的IPマスカレード設定 > エントリ編集

高度な設定画面の[WAN→LAN中継設定]と静的IPマスカレード設定画面の内容が競合した場合は、高度な設定画面の[WAN→LAN中継設定]の内容が優先されます。設定変更を行うと、通信・通話が切断されることがあります。

【静的IPマスカレード設定 エントリ編集】

対象インタフェース: メインセッション
エントリ番号: 1

変換対象プロトコル: TCP
変換対象ポート:
宛先IPアドレス:
宛先ポート:

設定 戻る

《デバイスが NVR の場合》

エントリ番号	変換対象プロトコル	変換対象ポート	宛先 IP アドレス	宛先ポート
1	TCP&UDP	80	NVR の IP アドレス	80
2	TCP&UDP	443	NVR の IP アドレス	443
3	TCP&UDP	6036	NVR の IP アドレス	6036

※NVR の IP アドレスは [Step1:【NVR】IPv4 アドレスを固定する \(P.3\)](#) で設定した IP アドレスを入力します。

※初期ポート使用時の設定値です。

《デバイスがカメラの場合》

エントリ番号	変換対象プロトコル	変換対象ポート	宛先 IP アドレス	宛先ポート
1	TCP&UDP	80	カメラの IP アドレス	80
2	TCP&UDP	9008	NVR の IP アドレス	9008

※カメラの IP アドレスは [Step2:【カメラ】IPv4 アドレスを固定する \(P.7\)](#) で設定した IP アドレスを入力します。

※初期ポート使用時の設定値です。

- ④ 一覧画面に追加した内容が反映されます。
追加した各エントリの〈有効/無効〉のチェックボックスにチェックを入れ、[設定]をクリックします。

静的IPマスカレード設定

トップページ > 詳細設定 > 静的IPマスカレード設定 ヘルプ?

高度な設定画面の[WAN→LAN中継設定]と静的IPマスカレード設定画面の内容が競合した場合は、高度な設定画面の[WAN→LAN中継設定]の内容が優先されます。設定変更を行うと、通信・通話が切断されることがあります。

対象インタフェースを選択: メインセッション

【静的IPマスカレード設定】

設定

有効/無効	エントリ番号	変換対象プロトコル	変換対象ポート	宛先IPアドレス	宛先ポート	操作
<input checked="" type="checkbox"/>	1	TCP	www	192.168.1.200	www	編集 削除
<input checked="" type="checkbox"/>	2	TCP	443	192.168.1.200	443	編集 削除
<input checked="" type="checkbox"/>	3	TCP	6036	192.168.1.200	6036	編集 削除
<input type="checkbox"/>	4					編集 削除

- ⑤ RT-500KI のポート転送設定は以上です。

視聴アプリに DDNS 接続のデバイスを追加する

各視聴アプリに、デバイスに設定したドメイン名を追加します。

スマートフォン用アプリ:SuperLive Plus の操作

- ① アプリ起動後、〈ライブ〉画面右上のアイコンをタップします。
- ② 〈サーバーリスト〉画面右端のアイコンをタップし[手動で追加]をタップします。
- ③ 〈デバイスを追加〉画面の「シリアル番号」の文字をタップし、「IP アドレス/ドメイン名」をタップします。



- ④ 〈IP アドレス/ドメイン名〉にドメイン名を入力します。
デバイスが NVR の場合は Step2:【NVR】DDNS 有効設定(P.4)で設定したドメイン名
デバイスがカメラの場合は
- ⑤ 〈ポート番号〉HTTP サーバーのポート番号を入力します。【初期値】:80
- ⑥ 〈ユーザー〉に、ユーザー名を入力します。【初期値】
admin
- ⑦ 〈パスワード〉に、パスワードを入力します。【初期値】
123456
- ⑧ [保存]をタップします。



サーバーリストに追加されます。右端の電波マークが緑色になれば、対象のデバイスがオンラインです。

Windows 用アプリ:NVMS2.0(Secula View/Monitor Client)の操作

- ① [デバイスの追加と編集]をクリックします。



- ② [追加]ボタンをクリックします。
③ <追加映像デバイス>の[手動追加]をクリックします。



<次のページへ>

- ④ 「IP アドレス」をクリックし、プルダウンメニューから「ドメイン名」を選択します。
- ⑤ デバイスに設定したドメイン名を入力後、**Enter** キーを押下します。
- ⑥ <プロトコル>に「Secula」を選択します。【初期値】Secula
- ⑦ <ポート番号>
デバイスがNVRの場合：サーバーポートのポート番号を入力します。【初期値：6036】
デバイスがカメラの場合：データポートのポート番号を入力します。【初期値：9008】
- ⑧ [接続テスト]ボタンをクリックします。「テスト成功」と表示されることを確認します。



- ⑨ テスト成功後、[OK]をクリックします。

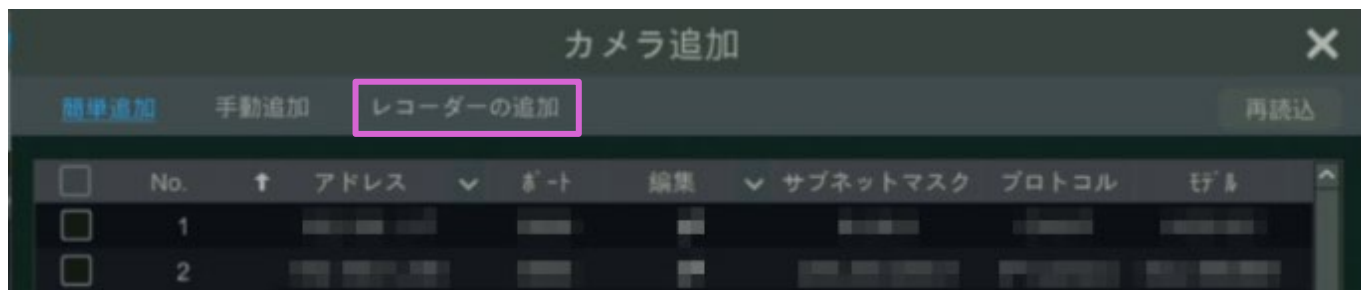


- ⑩ 追加したデバイスの状態が「Online」となれば完了です。

NVR に DDNS 接続のデバイスを追加する

NVR を追加する場合(レコーダーの追加)

- ① [設定]>[カメラ追加]で[レコーダーの追加]をクリックします。



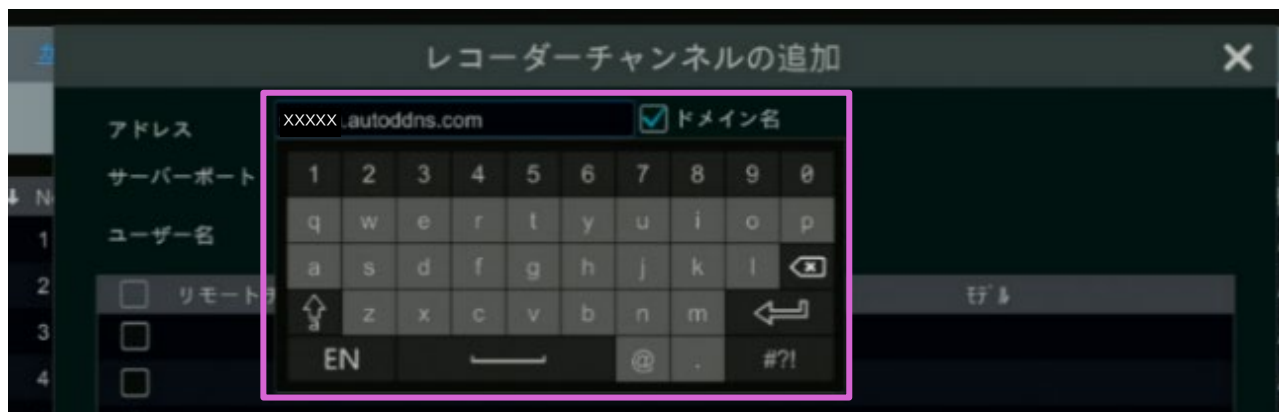
- ② [手動追加]をクリックします。



- ③ <ドメイン名>にチェックを入れます。



- ④ <アドレス>欄に Step2:【NVR】DDNS 有効設定 (P.4) で設定したドメイン名を入力します。



- ⑤ NVR に追加したい対象のカメラ(チャンネル番号)を選択し、[テスト]をクリックします。

レコーダーチャンネルの追加

アドレス: ☒ ドメイン名

サーバーポート: チャンネル数:

ユーザー名: パスワード:

<input type="checkbox"/>	リモートチャンネル番号	カメラ名	カメラID
<input checked="" type="checkbox"/>	1		
<input checked="" type="checkbox"/>	2		
<input checked="" type="checkbox"/>	3		
<input checked="" type="checkbox"/>	4		
<input type="checkbox"/>	5		

選択済み: 4 / 8

- ⑥ 「テスト成功」と表示されたら[OK]をクリックし、レコーダーの追加は完了です。

レコーダーチャンネルの追加

アドレス: ☒ ドメイン名

サーバーポート: チャンネル数:

ユーザー名: パスワード:

<input type="checkbox"/>	リモートチャンネル番号	カメラ名	カメラID
<input checked="" type="checkbox"/>	1		
<input checked="" type="checkbox"/>	2		
<input checked="" type="checkbox"/>	3		
<input checked="" type="checkbox"/>	4		
<input type="checkbox"/>	5		
<input type="checkbox"/>	6		
<input type="checkbox"/>	7		
<input type="checkbox"/>	8		

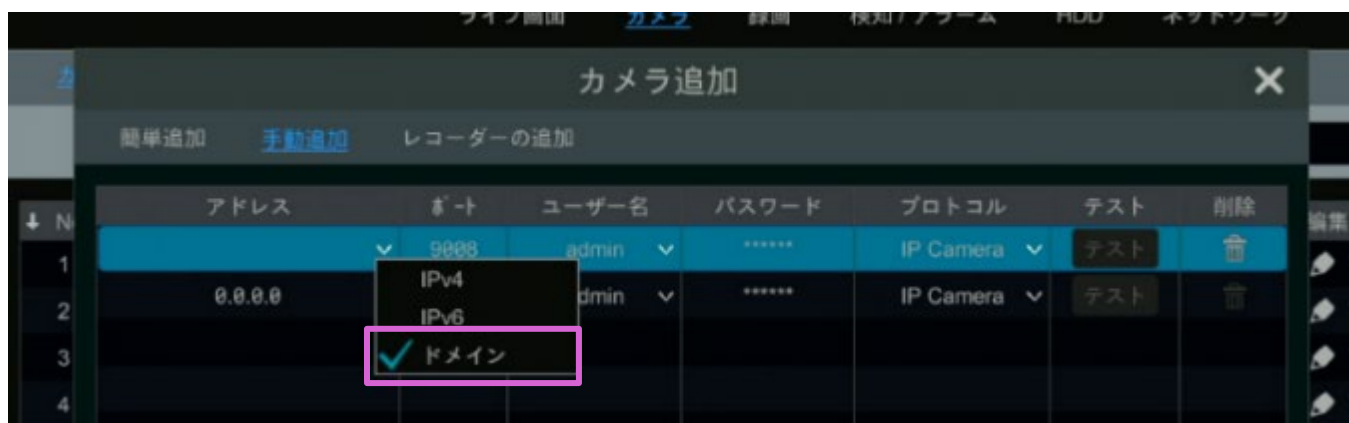
選択済み: 4 / 8

カメラを追加する場合

- ① [設定]>[カメラ追加]で[手動追加]をクリックします。



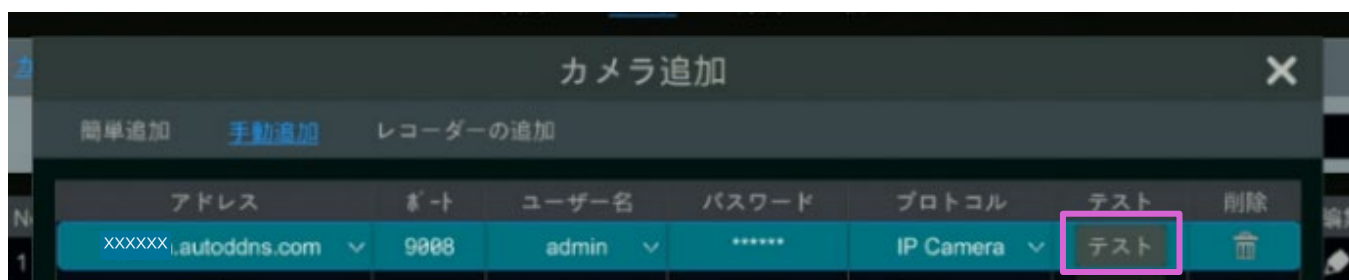
- ② <アドレス>欄の横の「v」をクリックし[ドメイン]を選択します。



- ③ <アドレス>欄に Step3:【カメラ】DDNS 設定(P.8) で設定したドメイン名を入力します。



- ④ [テスト]をクリックします。



- ⑤ 「テスト成功」と表示されたら[追加]をクリックします。



よくあるご質問

同一ネットワーク内で複数台のデバイスを DDNS 接続する場合

同一ネットワーク内で複数台のデバイスを DDNS 接続する場合、2 台目以後のデバイスはポート番号を変更する必要があります。1 台目と同じ、初期値のポート番号を複数デバイスで使用することはできません。

デバイスのポート番号は、NVR 設定パネルまたは WEB 設定画面の「ネットワーク>ポート」から変更できます。

[【参照】デバイスのポート番号\(初期値\)について P.10](#)

- ◆ ポート番号は、他機器が使用していないポートを使用してください。
- ◆ 一般的に「ウェルノウンポート」と呼ばれる 0 から 1023 番まではデバイスに使用しないことをお奨めいたします。

ポート転送は、変更後のポート番号で設定してください。

UPnP 機能について

UPnP 機能は自動的にポートを開放する機能です。DDNS 接続ではルーターにポート転送設定が必要ですが、UPnP 機能を使えば、ルーターへのポート転送設定が不要です。ルーターが UPnP 機能に対応していれば、NVR とルーターの UPnP を有効にすることで、ルーターのポート転送設定を省略できます。

《デバイスの UPnP 有効設定》

各デバイスの設定パネルや WEB 設定から「ネットワーク>UPnP」と進み、《有効》にチェックを入れ[適用]をクリックします。画面内に表示されている「外部ポート」の番号を変更したい場合は、[Mapタイプ]を「手動」に変更し、各ポート番号に任意の値を入力してください。

UPnP 状態が、全て「有効な UPNP」となれば正常です。「未準備」「無効な UPNP」が表示される場合は、ルーターの UPnP 設定が有効になっているかをご確認ください。

ルーターの UPnP 有効操作につきましては、お手持ちのルーターのメーカーにお問い合わせください。

ルーターの UPnP 設定を有効にしても UPnP 状態が「有効な UPNP」にならない場合は、ポート番号の変更をお試しください。

なお当社ではUPnP機能ではなくポート転送設定での運用を推奨しております。ご環境によって接続が不安定になったり、停電やルーター再起動などのタイミングで接続ができなくなることがございます。

UPnPでの運用が不安定な場合は、ポート転送での運用にご変更ください。

❖ お問い合わせについて

Secula 製品ご購入後のご質問は下記にて対応しております。

※ 非正規出荷品(Secula シリーズ)以外の場合はお答えいたしかねますので、予めご了承ください。

※ 故障時の修理につきましては、お買い上げいただいた販売店様にお尋ねください。

▶ ソリッドカメラ ホームページ

<https://www.solidcamera.net>

- ・ ソフトウェアまたは資料等のダウンロード
- ・ よくあるご質問



▶ お問い合わせ窓口

Secula サポート専用ダイヤル

0120-223-323

音声ガイダンス:2

[受付時間] 9:00~12:00 / 13:00~18:00
(土曜・日曜・祝日、夏季休暇・年末年始を除く)

お問い合わせフォーム



MEMO

[illegible]

MEMO

[illegible]



NVR・IP カメラ DDNS 設定

2023 年 5 月 25 日 第 1 版発行